

膝の痛みの専門的治療

人工膝関節置換術・骨切り術・APS療法 ご紹介

荻窪病院
地域連携ニュース
8月



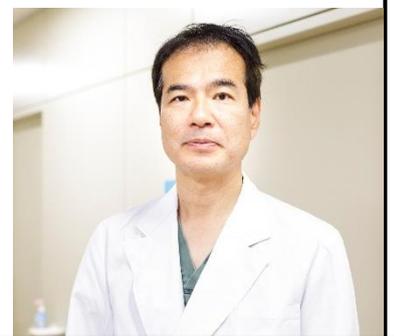
膝関節センターの森山です。日頃より患者さんをご紹介頂き、ありがとうございます。さて、アメリカでは増大する変形性膝関節症患者の医療費が社会問題になっており「パンデミック OA (変形性膝関節症)」が生じていると言われていています。肥満率の高いアメリカならではの話に聞こえますが、日本でも膝関節症患者は年々増えており、行動の自由を奪う膝関節症は多くの人の生活の質を落とす最大の要因となっています。7月より開始したAPS療法含め、当院の変形性膝関節症に対する治療の特徴をお伝えします。

【保存療法】

再生医療 APS 療法は手術を選択できない方に

自己の血液を抽出し得られる多血小板血漿(Platelet-rich plasma, PRP:下図)をさらに濃縮した自己タンパク質溶液APS(Autologous Protein Solution)は、抗炎症性サイトカイン、成長因子を高濃度に含んでおり、変形性膝関節症の炎症を抑え、疼痛を緩和します。自身の血液を加工し注射するため再生医療とされ、施設基準を満たした医療機関でのみ実施が可能です。膝関節の変性があまり重度でないほうが効果が高く、ヒアルロン酸などこれまでの保存療法では

症状が改善されなかった方、手術を受けたくてもすぐには受けられない方に適しています(自費診療:片膝 33万円税込)。金曜午前に「APS外来」を開設し、適応の確認やくわしい説明を行っておりますので、希望される患者さんがおりましたら、ぜひ「APS外来」へご紹介ください。



●膝関節センター長 / 整形外科 医長
森山 一郎 もりやま いちろう

1990年 島根医科大学医学部 卒業
医学博士、日本整形外科学会整形外科専門医
日本整形外科学会研修指導者
高校サッカー全国大会に島根県代表として出場し3回戦まで勝ち進む。県立大社高校出身

【手術療法】

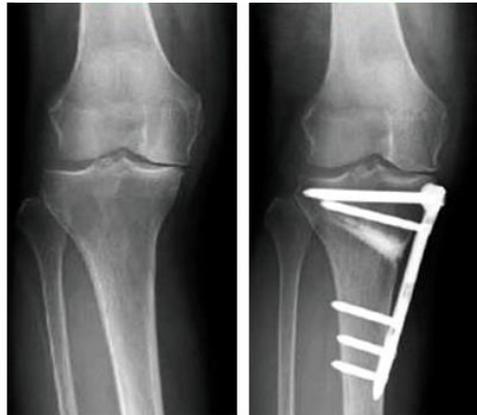
膝関節が温存できる骨切り術

脛骨の上部を切開し、膝関節の荷重部位を矯正することで、膝の内側にかかる負荷と痛みが緩和する「高位脛骨骨切り術」は、以前より行われていますが、膝関節が温存される術式として近年見直され、実施件数が増えてきている手術です。

特に脛骨・腓骨の両方を切ることで調整を行う closed wedge 骨切り術は改良が進み、矯正角度が大きい方、PF 関節の OA、屈曲拘縮がある方にも適応があります。

膝関節は温存されるためスポーツにも復帰しやすく、70 代後半から 80 代でも手術され、登山やテニスなど趣味のスポーツに励まれる患者さんも多くいます。膝関節の外側の変形も強い場合は、効果が期待できないため、人工膝関節置換術が薦められます。

open wedge 骨切り術



closed wedge 骨切り術



【手術療法】

高度な変形に対応できる人工膝関節置換術

膝関節全てを人工関節にする TKA、内側もしくは外側の片側のみを置換する UKA の 2 つの方法があり、森山は片膝を 1 時間前後で行っています。

痛みの原因である膝関節そのものを替えるため、痛みの除去に最も効果があります。当院では

●同日両膝の手術が可能です

入院が 1 回で済むので喜ばれています。片側の手術と比べ、入院期間もほぼ同じ 3 週間程度です。

●高齢の方、合併症のある方もご相談を

80 歳を超えられた高齢の方でも全身症状がよければ、手術を行っています。合併症（心筋梗塞・脳梗塞・糖尿病など）のある方も、他科と連携して治療を行っていますので一度ご相談ください。

人生 100 年時代の今、膝を良い状態に保つことは大事なことと考えます。どうぞお気軽に、かかりつけの先生方からのご紹介をお待ちしています。

TKA



UKA



ご紹介・ご相談は

荻窪病院 地域連携室

発行：2023 年 8 月

月～金 8：30～18：30 土 8：30～12：00 TEL 03-3399-0257 FAX 03-3399-0258 〒167-0035 東京都杉並区今川 3-1-24